

環境科学者としての経験を携えて未来を見つめる

ヴェネツィアの人の手に
普通の生活を取り戻すこと

夢の世界のような美しい街——15

歳で初めて訪れたヴェネツィアの印象を、ジェーン・ダ・モストさんはこう表現しました。イギリス人の少女は、後に自分が伯爵家に嫁ぎヴェネツィアに暮らす日が来ることなど、どうして想像しえたでしょう。

オックスフォード大学を卒業後、ジェーンさんは環境科学者としてのキャリアを重ね、世界を舞台に活躍します。そして1995年、ヴェネツィアに移り住みます。

「当初はラグーナ（潟）をどう保護すべきか、科学者の目線で気候変動などの研究をしていたのですが、問題は増長する一方で。科学者として問題解決にあたっていたのではという間に合わないと感じました」

そこで仲間たちと共に、ヴェネツィアの持続可能な未来のための研究、活動を行うNGOを創設します。それが「we are here venice」です。

「ヴェネツィアは世界一美しい街になることはあっても、世界一観光客が多い街になることはありえないのです。街全体がミュージアムのようになっていては意味がない。暮らす人々が普通に生活を送ることができなければ。私たちの活動を支援してくださるデザイナーのヴィヴィアン・ウエストウッドさんもおっしゃっています。『ヴェネツィアはヴェネツィア人



Profile

ジェーン・ダ・モスト | Jane da Mosto

南アフリカ生まれ。夫は、建築家、歴史学者、TV番組の司会者としても著名なフランチェスコ・ダ・モスト伯爵。環境科学者、コンサルタントとして活躍後、2012年「we are here venice」を共同創設。
<http://weareherevenice.org/>

1 母が1980年代に購入した壮麗な館を、ジェーンさんはヴェネツィアを愛した母の遺志と共に継承。2 街の未来を守る活動が評価され、毎年3人選ばれるオゼッラ ドーロ賞を受賞したときのメダル。3 書斎にて、ジェーンさん。

のために、そして世界のためにある」と例え、近年頻繁に寄港するようになった巨大クルーズ船の存在も、憂慮に堪えないといいます。

「まるで一つの街のような巨大な船が観光客を大量に運んでくる。でも、ヴェネツィアは本来それらを受け入れるようには設計されていません。目先の利益にとらわれて個人の生活の質を犠牲にしていたのでは、街の持続的な未来はないのです。根本的な解決のために観光客を制限する必要があるのではないかと思います」

しかし、世界に二つとない美しさだからこそ、誰もが訪れたい、また戻ってきたいと夢に思い描く……。それがヴェネツィアという街。

「私たちが問題視しているのは、わずか数時間の滞在で名所を駆け回るだけの観光客の増加です。ヴェネツィア人の心に寄り添いながら、生活するようなリズムでここでの時間を過ごす。そんなふうに滞在していたら、もちろん大歓迎です。どうぞ、またいらしてくださいね」